

8 「子育て」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.16 点であり、基準年調査より 0.08 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50～59 歳」が低く、「70 歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「常用雇用者」が低く、「家族従業者」が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、「子どもはいない」が低く、「1 人」が高くなりました。

○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 11 のとおりでした。

表 11 「子育て」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R 4 - H31
県計		3.08	3.16	0.08
年代	20～29 歳	2.80	3.12	0.32
職業	会社役員・団体役員	2.94	3.27	0.33
	専業主婦・主夫	3.04	3.27	0.23
世帯構成	ひとり暮らし	2.80	3.00	0.21
子の人数	1 人	3.11	3.27	0.16
	子どもはいない	2.60	3.87	0.27
広域振興圏	県南広域振興圏	2.97	3.14	0.18
	県北広域振興圏	3.01	3.22	0.21

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表 11 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由」については、実感が上昇した人の回答理由は以下のとおりでした。
 - (ア) 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など)
 - (イ) 子どもを預けられる場所の有無(保育所など)
 - (ウ) 配偶者の家事への参加
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「子どもを預けられる人の有無(親、親戚など)」、「子どもを預けられる場所の有無(保育所など)」、「配偶者の家事への参加」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性はなく、低値（3 点未満）で推移している属性は表 12 のとおりです。

○ 子どもはいない

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」において、「子どもはいない人」の回答者が「あまり感じない・感じない」

と回答した項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）
- (イ) 子どもの教育にかかる費用
- (ウ) 子育てにかかる費用
- (エ) 自分の就業状況（労働時間、休養・休暇など）

表 12 「子育て」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R 2	R 3	R 4
子の数	子どもはいない	2. 61	2. 73	2. 63	2. 60	2. 72	2. 83	2. 87